

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4097900015
法人名	医療法人 松本医院
事業所名	グループホーム 朝日苑
所在地 (電話番号)	福岡県三潁郡大木町大藪186-1 (電話) 0944-75-8520

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 6月 23日	評価確定日	平成 21年 8月 12日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算	17.4人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横山外科医院・長田医院・おおかわメンタルクリニック・藤丸歯科医院・安本医院・松本医
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、以前から同地域で医院を開業されており、長年“地元の医院”として地域住民を支えてこられた。医院に受診に来られる地域の高齢者の方を長年診てこられた中で、医療面だけでなく、地域の中で高齢者の方の生活を支える支援を行いたいとの思いが芽生えられ、平成18年8月に“グループホーム朝日苑”を開設された。現在は、ホームに隣接して、小規模多機能型居宅介護事業所も運営されている。ホームには、月棟と星棟の2ユニットがある。ユニット毎に、大きな窓から屋外のウッドデッキに直接出られるようになっており、車いすのご利用者も、ウッドデッキからホームの菜園や屋外の様子を楽しまれている。リビングには、季節に応じた手作りカレンダーや行事の写真が飾られ、廊下の窓からは季節の花が植えられた庭が見える。庭の向こうには田園が広がっており、ホームのいたるところで、いつでも季節の移ろいを感じられる。職員は、ご利用者と“大切な時”を共有しながら、ご利用者が“ふつうの一日”を過ごされるよう、日々ケアを実践されている。夕暮れになると、ホーム周辺の田園の小道を地域の方たちが散歩をされており、気軽にご利用者と挨拶を交わしている。ご利用者は日々季節の移ろいを感じながら、ゆったりとした時間の流れの中で生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果から、ユニット毎に話し合いを持ち改善計画書を作成し、職員全員で改善に取り組んできた。具体的な取り組みの内容として、①ご利用者全員の水分摂取量を把握し、記録を行うようにした②ご利用者と職員と一緒に食事を摂るようにし、ご利用者が楽しく食事ができるように改善した。③1回の会議の中で、職員全員で全ご利用者の介護計画の検討を行うようにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事務長・管理者は、評価に取り組むことで日頃のケアを振り返ることができると考えており、職員に評価の意義を伝えた。職員全員で、一人5項目ずつ分担して自己評価に取り組み、ユニット毎に話し合いを行い、その結果をまとめ上げた。自己評価に取り組むことで、日々当たり前に取り組んでいるケアの見直しや日々の取り組みやケアの意味を改めて考え、理解する機会となった。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご家族代表・地区の民生委員・区長・町役場職員・社会福祉士が参加して、2ヶ月に1回開催している。職員からホームの活動報告を行うと共に、町役場職員や他の出席者から、町内行事や町の取り組み、職員が参加できる研修の紹介等の情報提供が行われている。また、会議の中で、職員が受講した研修の報告も行われている。会議参加者からの助言で、ご利用者が地域のグランドゴルフに参加されるようになったり、ホームのホームページを作成する等、具体的なホーム運営の改善・向上に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ホームにはご意見箱を設置しており、ご家族宛てに無記名アンケートを実施したり、ご意見ご要望を書いて返送いただく用紙を郵送する等、ご家族からご意見・ご要望をいただけるよう働きかけを続けている。ご意見・ご要望を受けた時は、受付から処理までの一連の対応を記録に残し、運営推進会議で報告している。以前、ご家族から町役場へホームの要望を伝えられたことがあり、その時は、町役場の担当者が間に入り、話し合いが行われた。町役場の担当者の助言を受けながら、改善が図られた。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご利用者は、散歩時にホーム周辺の畑で作業されている地域の方と世間話を楽しまれている。畑の収穫物を差し入れていただいたり、ホーム横の畑でのイチゴ狩りのお誘いを受けることもある。ご利用者は、区長からのお誘いを受け、地域のグランドゴルフに参加している。ご利用者と職員で大木祭りに出かけたり、ホームの夏祭りに20名以上の地域の方が参加される等、積極的な交流が図られている。また、保育園児や小学生の訪問、中学生の職場体験の受け入れも、毎年行っている。現在も、区長から、地域の生き物調査への参加等のお誘いを受けており、今後は参加の機会や参加するご利用者をもっと増やしていきたいと、管理者は考えられている。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年のグループホーム開設時に、全職員が意見を出し合い、事務長が職員から出された言葉をひとつにまとめ上げた。理念にある“大切な時・大切な場所・ふつうの一日”という言葉に、ご利用者が生まれ育った地域で、ご利用者の時間を大切にしながら、地域に根差した普通の生活が送れるように支援する、というホームの役割が込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に、職員全員で理念の言葉を唱和しており、理念の言葉は職員一人一人に浸透している。理念に沿った支援が実践できるように、職員で話し合い“今月の目標”を掲げて、職員は、朝日苑の和を大切にして、ご利用者主体のケアに取り組まれている。新しく入った職員については、日々のケアを通して、職員同士で声を掛け合いながら、日々理念に沿ったケアが実践できるように、職員全員で働きかけを続けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者は、散歩時にホーム周辺の畑で作業されている地域の方と世間話を楽しまれている。畑の収穫物を差し入れていただいたり、ホーム横の畑でのイチゴ狩りのお誘いを受けることもある。ご利用者は、区長からのお誘いを受け、地域のランドゴルフに参加している。ご利用者と職員で大木祭りに出かけたり、ホームの夏祭りに20名以上の地域の方が参加される等、積極的な交流が図られている。また、保育園児や小学生の訪問、中学生の職場体験の受け入れも、毎年行っている。	○	区長から地域の生き物調査等の催しのお誘いを受けており、ご利用者と共に参加して行きたいと管理者は考えている。更なる取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果について、ユニット毎に話し合いを持ち改善計画書を作成し、改善に取り組んできた。事務長と管理者は、評価に取り組むことで日頃のケアを振り返ることができると考えており、職員に評価の意義を伝えた。職員全員で、一人5項目づつ分担して自己評価に取り組み、ユニット毎に話し合いを行い、その結果をまとめ上げた。自己評価に取り組むことで、日々当たり前に取り組んでいるケアの見直しや日々の取り組みやケアの意味を改めて考え、理解する機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表・地区の民生委員・区長・町役場職員・社会福祉士が参加して2ヶ月に1回開催している。職員からホームの活動報告を行うと共に、町役場職員や他の出席者から、町内行事や町の取り組み、職員が参加できる研修の紹介等の情報提供が行われている。また、会議の中で、職員が受講した研修の報告も行われている。会議参加者からの助言で、ご利用者が地域のランドゴルフに参加されるようになったり、ホームのホームページを作成する等、具体的なホーム運営の改善・向上に活かされている。	○	ご利用者の意見をホーム運営の改善に活かす為にも、運営推進会議へのご利用者の参加を検討される等、今後更なる取り組みがなされることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者は、随時、町役場の窓口を訪れ、担当者にホームの状況報告を行ったり、2ヶ月に1回“朝日苑便り”を届けている。町役場の担当者は、町の地域密着型サービス事業者会やケアマネ連絡会に出席されており、ホームとの関係作りに積極的に取り組まれている。会を通してホームの見学に来られており、具体的な指導やアドバイスを頂いた。町役場の担当者とは、意見を伝え合える関係が築かれており、運営推進会議を通しての意見交換も活発に行われている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、運営推進会議に参加されている社会福祉士の方を講師に招き、内部研修を行った。日常生活支援事業については、職員が外部研修に参加し、伝達研修を行うことで全職員に周知を図った。各制度について、職員全員が必要時に説明できる体制を整えているが、現在、制度を活用している方はおられず、ホームからご利用者やご家族へ、制度についての説明等は行っていない。	○	ご利用者のご家族が必要時に支障なく制度を活用できるよう、まずはご利用者やご家族に制度についてお知らせする等、具体的な支援に取り組んでいかれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族の面会時に、職員からご家族へ、口頭でご利用者の近況報告を行っている。また、2ヶ月に1回“朝日苑便り”を配布、または郵送でお送りしている。健康状態については、面会時や電話を頂いた時に口頭で報告しており、緊急時や変化がある時には、その都度、職員からご家族へ電話連絡を行っている。金銭管理の報告は、月に1回のご家族面会時に出納帳を確認して頂き、合わせて職員が口頭で行っている。それぞれのご家族の面会頻度や状況に対応し、個々に合わせた報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームにはご意見箱を設置しており、ご家族宛てに無記名アンケートを実施したり、ご意見ご要望を書いて返送いただく用紙を郵送する等、ご家族からご意見・ご要望をいただけるよう働きかけを続けている。ご意見・ご要望を受けた時は、受付から処理までの一連の対応を記録に残し、運営推進会議で報告している。以前、ご家族から町役場へホームの要望を伝えられたことがあり、その時は、町役場の担当者が間に入り、話し合いが行われた。町役場の担当者の助言を受けながら、改善が図られた。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職を最小限にするために、基準以上の人員配置にしており、調理専門の職員を配置している。職員の休みの希望には極力応じており、職員の状況に応じて事務長が個人面談を行い、悩みなどを聴取している。毎年、職員の新年会・夕涼み会・ボーリング大会を行い、職員の親睦を深める機会を設けている。職員の入れ替わりがある時は、ご利用者のダメージを防ぐ為、管理者が、ご利用者の状況・性格・心情に合わせて、説明の仕方を変えて説明を行い対応した。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は、職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、採用対象から外すということはない。職員の特技を活かして手工芸のレクリエーションや掲示物の作成・ご利用者への読み聞かせを担当してもらう等、職員一人一人が特技や趣味の能力を十分発揮でき、生き生きと働けるように配慮している。フットセラピーの資格取得を目指している職員には、通学日に合わせての勤務調整希望に極力応じる等、職員の自己実現の支援も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は町役場で開催された人権に関する研修会に参加しており、伝達研修を行った。ご利用者の人権尊重の実践について、職員への周知を図っている。日々のケアの場面で、ご利用者への言葉使い等、気になる事がある時は、管理者から職員へ伝えたり、職員同士で伝え合うようにしており、職員一人一人が人権尊重についての意識を常に保たれるように努力されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員に必要と思われた研修について職員に知らせ、受講希望に応じて勤務調整を行い、受講してもらうようしている。受講後は伝達研修を行い、職員全員で情報を共有している。今年は、内部研修に力を入れており、月に1回内部研修を実施し、職員が交代で講師となり、職員同士で学ぶ場を設けている。これまでに、認知症の方への対応方法の再確認、清拭の手順等、日々のケアに即した内容の研修が行われた。	○	運営者・管理者は、職員との個人面談を通して、個々の職員のスキルアップのために、受けた研修はないかなど、研修の受講希望を伺っている。職員の希望に応じた研修案内がホームに送られてきたら、希望された職員にお知らせしている。外部研修の受講と共に、日々の勤務の中でも職員を育成できる機会はあると思われることから、個別の育成計画を作成する等、更なる取り組みが行われることに期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性を認識しており、町の地域密着型サービス事業者会やケアマネ連絡会に加入し、管理者が参加している。また、県の高齢者グループホーム協議会主催の研修会に管理者が参加しており、県内の他事業所の職員との意見交換が行われた。町の地域密着型サービス事業者会やケアマネ連絡会を通して、他事業所との情報交換や相談が行われており、サービスの質を向上させていく取り組みが行われている。	○	職員は、外部研修に参加することで、他事業所の方々と交流する機会もあられるが、運営者・管理者は、町の地域密着型サービス事業者会に職員を参加させることで、更に、他事業所の職員との交流が図られると考えられている。実現に向けた、今後の取り組みに期待していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者・計画作成担当者が入居前に、2、3回ご自宅や病院に訪問するようしており、ご利用者の様子を確認すると共に、職員との馴染みの関係作り力を入れ、ご利用者が不安なくサービスが利用できるように努めている。その後、ご本人・ご家族にホームの見学へ来て頂いている。入居後は、職員の対応と共に、ご家族に電話での対応をお願いしており、ご利用者が不安を感じた時は、いつでもご家族の声が聞けることで、ご利用者の不安を取り除けるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者から、昔からの生活の知恵を学んだり、ホームの菜園の野菜の収穫時期を教えて頂いている。職員は、箸の使い方や洗濯物の干し方を一から教えてもらうこともある。職員は、ご利用者との日々の活動の中で、上手くできた時は共に喜び、上手くいかなかった時は励ましあいながら、ご利用者と喜怒哀楽を共有している。時には、夜勤中にご利用者から「代わりに見とくけん、2、3時間寝なさい」と職員を気遣ってくださることもある。ご利用者の優しさに、日々支えて頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には、管理者・計画作成担当者が、ご本人とご家族の意向を確認している。入居後は、入浴中やレクリエーションの時に、ご利用者と職員でゆっくり話をする機会を作り、ご利用者の思いや意向の把握に努めている。明確に意向を表明していただけないご利用者についても、その方の生活歴や以前の趣味等を把握し、職員間で話し合いを持ちながら、興味を示されそうな物品を提示してみて、ご利用者の思いを汲み取る取り組みを続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は、ご利用者とご家族の意向に、会議で出された職員の気付きが加えられており、かかりつけ医等必要な関係者からの意見を組み入れたものを、計画作成担当者が作り上げている。計画には、専門用語が使われている部分もあるが、併設の小規模多機能型居宅介護との交流や地域のボランティアの受け入れ等、現在活用している地域資源の内容も明記されており『地域で暮らす』という視点が盛り込まれた計画となっている。	○	現在の計画書は、職員の役割と地域資源の内容を主に掲げ、作られている。今後は、ご利用者自身が担っておられる役割や、ご家族やかかりつけの医師など、必要な関係者が担っておられる役割も、計画の中に盛り込まれてみてはどうかであろうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者の計画について、月1回の会議の中で職員間で話し合いを行っており、3ヶ月毎にカンファレンスを行い、改めて計画の見直しをしている。ご利用者やご家族の要望、状態に変化が生じた場合は、介護計画の見直しを設定した時期の前に行っている。計画作成担当者は、ご利用者との関わりや職員からの情報を大切にしており、ご利用者やご家族、職員、関係者との話し合いの中で新たな気づきや意見が出た時は、それらを計画に反映させるため、随時計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の希望に応じて、職員が同行して個別に本屋へ外出し、ご自分で本を選んで買ってもらったり、ご利用者やご家族から外泊の希望がある時は、日程調整の対応を行う等して、個別に支援を行っている。母体が、医療機関ということもあり、小さな体調の変容であっても職員が医師に伝えると、すぐにホームに駆けつけて下さっている。入院が必要な場合の病院の紹介もして下さるなど、医療連携体制も整っている。ご家族による通院介助が難しいご利用者には、希望に応じて職員が通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者には以前からのかかりつけ医で受療して頂いているが、ご利用者やご家族からホームの協力医療機関への変更を希望される方もおられる。ホームには、週3回、協力医療機関の医師による往診が行われ、ご利用者の体調変容に細やかに対応できる体制を整えている。通院介助は、ご家族が行われることが多いが、希望があれば職員が介助を行う。受診時は、職員からかかりつけ医へ、手紙で報告を行っており、折り返し、かかりつけ医から手紙で、受診内容や指示を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応について、全ご利用者、ご家族の意向を伺っている。ホームでの看取りを希望された場合は、管理者からホームで対応できる事、できない事を説明している。対応を希望されているご利用者やご家族に状況の変化があった時は、医師や管理者、計画作成担当者、職員、ご家族との話し合いを随時行い、再度意向の確認を行うようにしている。ご家族の協力を得ながら、毎日、医師に往診していただき、これまでに3名の方の看取りが行われた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、ご利用者への親しみのある言葉の中にも、自尊心・羞恥心への配慮を心がけている。ご利用者への誘導の声掛けはさりげなく行っており、ご利用者の言動や行動を否定したり、指導的な言動をしないよう、職員同士で気を付け合っている。ご利用者の近くで職員間の申し送りを行う時は、メモボードを使って回覧したり、個人が特定できないようにイニシャルで報告している。不要となった用紙はシュレッダー処理する等、職員全員で意識して個人情報の管理に取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、ご利用者のペースに合わせ、無理強いはしていない。それぞれのご利用者の希望に応じて、ホームの菜園の草取りに取り組んだり、散歩や入浴の時間を調整するなど、臨機応変に対応している。自らどう過ごしたいと言われないご利用者には、職員からいくつかの活動を提案して、選んでいただいている。職員は、ご利用者と個別に話をするなどして、ご本人の興味のあることを聞き出し、ご利用者が活動を楽しめるように工夫を続けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は、食材の買い出しや調理の下ごしらえ・テーブル拭き等に、職員と一緒に取り組まれている。昨年の外部評価以降、職員も一緒に食卓について食事を摂るようにしており、ご利用者が楽しい雰囲気の中で食事を摂られるように工夫している。ご利用者の希望に応じて、回転寿司を食べに出かけたり、ホームでうなぎ料理の出前を取って食べることもある。また、季節毎にお弁当を持って花見に出かけたり、屋外で食事を楽しむ機会も設けている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10時から16時30分を入浴時間とし、週4回の入浴を実施している。利用者の体調によっては、清拭や足浴で対応することもある。入浴時間以外の時間に入浴の希望がある場合も、ほぼ希望通り対応できている。入浴は一人づつ行っており、入浴時間や順番など、個々のご利用者の希望に応じて対応している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を行ったり、入浴剤を使うなど、ご利用者に気持ち良く入浴していただけるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者には、洗濯物干しやぞうきん縫い、菜園作りや収穫、ホームの植木の手入れ等、それぞれのご利用者のこれまでの生活習慣や特技を活かしていただきながら、役割を担ってもらっている。職員は、役割を通じて、ご利用者が得意分野で活躍していただけるように支援している。また、それぞれのご利用者の希望に応じて、コーヒーを飲む時間を設けたり、ホームにあるマッサージ機を使えるようにするなど、楽しみごとの支援も行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者は、普段の散歩以外にも、日々のホームの食材を買いにスーパーに出かける等、日常的に外出を楽しまれている。また、初詣・お花見等の季節に応じた外出も行われている。ご利用者との会話から発展し、季節に応じてよぎやつくしを採りに出かける等、以前から習慣とされていた外出が継続できるように支援している。あまり外出希望や意見を言われぬご利用者もおられるが、職員から外出の提案を続けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は施錠しているが、日中は裏口以外の鍵はかけられていない。鍵をかけないケアを続けるために、日頃から職員同士で声をかけあい、目くばりや気くばりに取り組んでいる。玄関には鈴をつけており、鈴の音がした時は、職員が玄関を確認するようにしている。職員体制が厳しい時には、ご利用者の転倒防止のために、屋外のウッドデッキへの出入口のみ、センサーを設置することがある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、夜間を想定した避難訓練を、職員とご利用者で実施している。職員が少ない時間帯を想定しており、休みの職員が応援にかけつけるところまで実際に行い、訓練している。年に1回は、地域の消防署・消防団と連携した訓練を行っている。地域の消防団には災害時の協力依頼を行っており、消防団によるホーム周辺の夜回りが行われている。現在、災害発生時に備えた食料や飲料水などの備蓄は準備していないが、準備を検討する予定である。	○	備蓄の内容の検討とともに、早い時期に備蓄が備えられるよう、今後取組まれていくことに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しており、他機関の管理栄養士に依頼し、献立内容について指導・助言を受けている。一日1500ccの水分摂取を目標にしており、水分摂取が苦手なご利用者には、少し甘みのある飲み物を飲んで頂いている。昨年の外部評価以降、水分摂取量を把握し記録を行うようにした。食事・水分摂取量の把握とともに1ヶ月に1回の体重測定を行い、必要に応じ個別に栄養状態の管理をしている。ご利用者の嚥下状態に応じて、水分にとろみをつけたり、刻み食やミキサー食の対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームには、畳のスペースやソファのコーナーがあり、ご利用者が思い思いのお気に入りの場所で過ごせるように、配慮されている。リビングには、季節に応じた手作りカレンダーや行事の写真が飾られており、ホームの廊下には、植木が並べられ、窓から見える庭には季節の花が植えられている。部屋の中においても、目で見て季節が味わえるように配慮されている。ホーム内は高換気システムが取り入れられており、常に換気が保たれている。日差しが強い窓には、フィルム製の季節の写真を貼る等して、光の調節への配慮も充分に行われている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテンはホームの備え付けで、各居室に収納も設けてあるが、入居時には馴染みの物を持ってきて頂くようご利用者、ご家族に声かけをしている。ご家族と相談した結果、自宅で使っていたベッドやソファ・テレビなどを持ってこられており、御位牌を持ってこられたご利用者もおられる。入居後も、ご利用者と職員とで作ったカレンダーや塗り絵を居室の壁に飾るなどして、それぞれのご利用者が思い思いに居室作りが行われている。		